

令和7年度

角田市議会との交流  
及び行政視察報告書

目黒区議会 角田市訪問団

#### 派遣議員

【団長】 鈴木 まさし

【団員】 田島 けんじ、岸 大介、吉野 正人、上田 あや、はま よう子、  
橋本 しょうへい、後藤 さちこ、松嶋 祐一郎

#### 随員職員

松下健治 区議会事務局長

神邊敏彰 区議会事務局庶務係長

#### 訪問期間

令和8年1月29日～30日

#### 意見交換会テーマ及び視察項目

##### 1 意見交換会テーマ

「スポーツを通じた健康づくり」について

##### 2 視察事項

(1) かくだスポーツビレッジ

(2) 島田字堀切地内（角田市・島田生産森林組合との森林整備及び環境交流・環境学習等の実施に関する協定に係る民有林）

(3) 角田市スペースタワー・コスモハウス、JAXA角田宇宙センター



## 2. 角田市議会との意見交換及び調査研究

我が国は 2025 年問題、所謂、団塊の世代が全員 75 歳以上の後期高齢者となり、医療や介護需要の急増で社会保障費が増大する年を迎えて、高齢者の健康寿命延伸策による健康社会の実現が喫緊の課題となっている。健康社会の実現に向けて目黒区と角田市の共通した取り組みに「スポーツを通じた健康づくり」があり意見交換を行った。また、角田市にはスポーツ、健康、交流、観光を融合した全国的にも先進的なスポーツ拠点「かくだスポーツビレッジ」があり、意見交換テーマの関連施設として現地を視察した。

その他の視察先の報告内容は、訪問団参加議員の報告書のとおりである。



## 3. まとめ

今回の訪問では、初日の角田市議会議員との意見交換の他、2 日間を通じて馬場議長以下、市議会の皆さまが各視察先に同行し、丁寧に対応いただき交流がより一層深まった。角田市議会の目黒に対する思いが十分に伝わり、私たち訪問団も重く受け止めた。角田市との交流は、コロナ禍で中止していた小学生の相互行き来による交流が再開し、令和 7 年 10 月には目黒区の森林環境譲与税を活用し、角田市内の民有林を整備しカーボンオフセットを実施する取り組みも始まった。今後は、2 年後の友好都市協定 20 周年に向けて交流活動を充実させていきたい。



以上

訪問団長  
目黒区議会議員  
鈴木まさし

# 目黒区友好都市・宮城県角田市行政視察報告書

テーマ： スポーツを通じた健康づくりについて

ースポーツを通じた健康寿命延伸策の取組について(意見交換会)

視察日： 令和8年1月29日(木)

報告者： 目黒区議会議員 [ はまよう子 ]

## 1. 視察の目的と背景

目黒区の介護保険財政は、サービス利用の増大に伴い年々拡大傾向にあります。年間約 227 億円（令和 6 年度）に達する介護給付費の抑制は、最重要課題です。

介護給付の現状と特徴としては、目黒区の資料「第 9 期介護保険事業計画（案）」および「利用状況報告」によると、以下の特徴が挙げられます。

○受給率と利用率： 第 1 号被保険者に占めるサービス受給率は 16.5%、認定者に占める利用率は 73.2%。

○1 人当たり給付費： 令和 4 年度時点の第 1 号被保険者 1 人当たりの給付費月額は、全国平均や東京都平均に比べ高額であると指摘。

○支給限度額の利用状況： 在宅サービス利用者の平均利用率も全国・都平均より高い傾向にある。

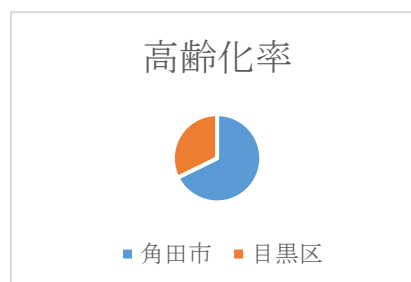
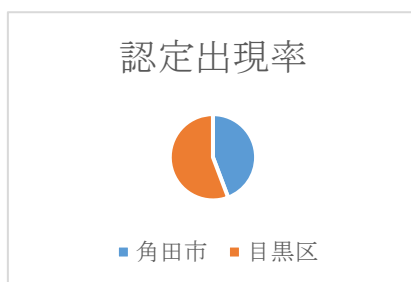
本視察では、高齢化率が本区の約 2 倍でありながら、スポーツを通じた健康まちづくりで認定出現率を低く抑えている友好都市・宮城県角田市の事例を調査し、目黒区の介護保険の支出抑制につなげるものです。

「住み慣れた地域で、いかに高齢者が自発的に参加したくなる仕組みを作るか」という視点から、本区への導入可能性を探ります。

## 2. 両自治体の現状比較(定量的分析)

以下は、両自治体の介護保険・高齢化の現状を比較したものです。

| 比較項目        | 角田市      | 目黒区        |
|-------------|----------|------------|
| 人口          | 26,249 人 | 282,632 人  |
| 第 1 号被保険者数  | 10,082 人 | 約 51,800 人 |
| 要介護・要支援認定者数 | 1,778 人  | 約 11,300 人 |
| 年間介護給付費     | 約 30 億円  | 約 260 億円   |



注目すべきは、角田市は高齢化率が目黒区のおよそ 2 倍であるにも関わらず、認定出現率が目黒区よりも低いということです。

### 3. 事業取組内容と意見交換

角田市では、国の交付金対象事業である「一般介護予防事業」を活用し、財源に充てている。

#### 角田市の取組

##### ① 健康ポイント事業

健康づくり運動教室等に参加した方に、健康ポイントを付与し、健康づくり運動を行うきっかけづくり・継続支援を行う。令和 7 年度までは、貯めたポイントを市商工会の「ためトクポイント」等に交換でき、買い物に利用できる。令和 8 年度以降は、システムのデジタル化等により内容が変更になる。

##### ② 高齢者の健康・体力づくりの推進

総合体育館等にて健康づくり運動・介護予防教室を開催。また、地域の住民自主サークルの活動を推進するために、地域へ健康づくり運動の講師を派遣。住民自主グループに対して健康ポイントを付与し、健康づくりと継続を支援するとともに、市政出前講座を開催し、健康づくりや介護予防の知識や情報の普及・啓発を図る。

##### ③ 介護予防活動応援事業（ついでにお得コツコツ活動事業）

月 1 回以上取り組む 4 人以上の住民自主グループ（ついで活動団体）に対して健康ポイントを付与し、健康づくりと継続を支援。

##### ④ 地域リハビリテーション活動支援事業

地域の医療機関や介護保険サービス事業所等のリハビリ専門職を、住民主体の通いの場の活動団体に派遣し、運動の実技指導や正しい知識の普及を図る。

##### ⑤ 老人クラブ運営助成事業

単位老人クラブ及び老人クラブ連合会に対し、老人福祉事業に関する事業の実施及び運営に要する経費の一部を助成し活動を支援。

##### ⑥ 生きがいデイサービス事業

家に閉じこもりがちで、要介護認定を受けていない自立している 65 歳以上の人を対象に、総合保健福祉センターまで送迎し、生活指導や健康チェック等を行う。

##### ⑦ 高齢者サロン「街なか交流サロンひだまり」

市中心部に高齢者サロンを開設し、活動しているボランティア等を対象とした研修会を開催。また、高齢者が今まで培ってきた技能や知識を生かした高齢者サロンを開き、高齢者の社会参加及び生きがいづくりを推進し、さらに心身機能の維持向上を図る。

角田市では、住民が主役のスポーツクラブが「居場所」として機能させ、スポーツ拠点をいかに使ってもらうかを工夫している。また、スポーツや運動に取り組むことが必要だと分かっているにもかかわらず取り組めない、興味が無い方に対して「ちょっとやってみたい」と思ってもらえる仕掛けを作れるかが重要との視点で施策に取り組んでいました。

○日常のついでをポイント化で、「特」「楽」「ついで」を生み出す。

- 「興味」の喚起→運動そのものを目的とせず、多世代交流やコミュニティ参加を「フック」にすることで、無関心層を自然に巻き込む仕組み。
- 「K スポ体験遠足」スポーツ拠点にいる人材を地域に広げることで、一人では行けなくても、団体や数名なら参加できる、という心理的ハードルを下げる。
- 財源の課題は、利用料は市民の方にも負担をお願いし、スポーツ施設をスポーツ・子育て事業などで助成金を得る仕組みを構築。

#### 目黒区の取組

本区の強みである民間リソース活用をし、「ダンスを活用した介護予防・フレイル予防事業」を実施。今後、角田市のような「特・楽・ついで」のような運動そのもののハードルを下げる取組や、「地域コミュニティとの深い連動」をどう付加するかは重要であると考えます。



【キャプション「角田市担当者との意見交換の様子」】

#### 4. 目黒区の未来へどう生かすか

##### ○「社会課題(財源不足)」への直接的アプローチ

増加する介護給付費に対し、角田市の低出現率モデルを参考に、「予防への投資」を加速させるべきです。これは将来的な区財政の健全化に直結。

##### ○高齢者が「自分ごと」と感じる仕掛け作り

「健康のために来てください」という従来の広報から、趣味や多世代交流を軸にした「地域での役割」を感じられる事業展開及び「特・楽・ついで」の視点と強化。

## ○住み慣れた地域での継続性担保

大規模施設だけでなく、区内の身近なスペースを拠点として活用するソフト面の強化と、目黒区ならではの民間の強みを生かした事業展開。

## 5. 視察を通じての所感

目黒区の介護保険財政における最大の特徴であり課題は、「第1号被保険者1人当たりの給付費（月額）」が全国平均や東京都平均を上回って推移している点にあります。

現状としては、目黒区の1人当たり給付費は約21,000円前後（令和4～5年度実績値ベース）と高く、受給者1人当たりのサービス利用量も多い傾向にあります。

要因としては、都市部特有の単身高齢者の多さや、介護保険外のインフォーマルサービス（近隣の助け合い等）の不足により、公的介護保険への依存度が高まっていることが推察されます。

一方で、視察先である角田市は、目黒区より遥かに高い高齢化率（38.6%）でありながら、認定出現率を低く抑え、給付費の急激な膨張を食い止めており、戦略として「認定を受けてからサービスを使い始める」のではなく、「認定を受けないための場（スポネット等）」に投資しています。これにより、重度化を防ぎ、結果として1人当たりの給付費抑制に繋がていると考えられます。

目黒区の給付費（年間約227億円）が全国平均水準まで抑制できれば、数億円規模の財源が捻出可能です。角田市の事例は、「予防への投資は、将来的な給付費（支出）を減らすための賢い投資である」ことの一例であり、単にサービスを制限するのではなく、角田市のように「住民が自発的に集まり、体を動かす」文化を醸成することが、目黒区の財政健全化への一つの道筋であると考えられます。

①「依存型」から「共助・自立型」へ：介護保険サービスに頼り切る前に、地域で健康を維持できる「通いの場」を質・量ともに拡充。

② 財政の持続可能性：ふるさと納税による減収（約48億円）や物価高騰に直面する中、介護給付費の膨張を放置することは、次世代への負担転嫁に他ならない。

③ 高齢者のQOL向上：介護が必要になってから手厚いケアを受けるよりも、住み慣れた目黒の街で、角田市の高齢者のように自立して元気に活動し続けることこそが、区民の真の幸せに直結。

上記3点の視点で、今後区民の皆さまにより良い施策をご提案してまいりたいと思います。

## 令和 7 年度 友好都市角田市訪問団 視察報告書

令和 8 年 2 月 1 3 日

目黒区議会議員 松嶋祐一郎

### 意見交換会「スポーツを通じた健康づくり」について

令和 8 年 1 月 29 日、目黒区議会角田市訪問団は、友好都市である宮城県角田市を訪問し、スポーツを通じた健康づくりをテーマとした意見交換および関連施設の視察を行った。

当日は、東京駅から新幹線にて白石蔵王駅へ移動後、角田市役所において議長への表敬訪問および議場見学を行い、その後、「かくだスポーツビレッジ」（角田市総合体育館ほか）および道の駅かくだを視察した。午後 4 時からは角田市役所において、テーマ「スポーツを通じた健康づくり」、サブテーマ「スポーツを通じた健康寿命延伸の取組」として意見交換会が行われた。

意見交換会に先立ち視察した「かくだスポーツビレッジ」は、角田中央公園一帯に整備された総合スポーツエリアであり、総合体育館、屋内温水プール、陸上競技場、テニスコート、多目的広場などが集約され、隣接する道の駅かくだと連

携した地域交流拠点として整備されている。

その後の意見交換会では、「スポーツを通じた健康づくり」を共通テーマとしたものの、角田市からは主として介護予防事業全般についての報告が行われた。具体的には、健康ポイント事業、高齢者の体力づくりの推進、介護予防活動応援事業、ついでにお得コツコツ活動事業、地域リハビリテーション活動支援事業、老人クラブ運営助成事業、生きがいデイサービス事業、高齢者サロン「街中交流サロンひだまり」など、多様な取組が紹介された。

質疑では、これらの介護予防施策による効果や手応えについて確認した。数値的な評価指標は現時点では十分に整理されていないものの、各事業が市民に一定程度利用されており、今後さらに広げていきたいとの考えが示された。また、介護予防施策と「かくだスポーツビレッジ」との関係についても意見交換を行い、高齢者の運動機会の場としての活用や、健康づくりの拠点としての役割が期待されていることが確認された。

視察したスポーツビレッジの温水プール利用料は、大人 650 円、高校生 380 円、小・中学生 250 円となっており、日常的に利用する場合には経済的負担が大きいと感じられた。一方で、高齢化の進展に伴い、こうした施設の維持管理そのものが自治体にとって大きな課題となっていることも明らかとなった。健康寿命

延伸のための拠点整備と、その持続的運営を両立させるためには、自治体努力だけでなく、国による財政的・制度的支援の強化が必要であると感じた。

意見交換会で、目黒区からは鈴木議長より、目黒区が現在取り組んでいる「目黒ダンスコネクション (MDC Senior Wellness Project)」について報告があった。ダンスを活用した介護予防・フレイル予防の取組として、民間企業との連携により実施しているシニア向けダンス講座や、区民インストラクター育成の構想などが紹介され、運動を「楽しく続けられる仕組み」として展開している点が説明された。

角田市の議員からは、「目黒区は良い取組をされている」との評価がある一方で、「角田市には芸能事務所のような民間資源がなく、同様の条件は整っていない」「羨ましい」との率直な意見も出された。地域資源や都市的条件の違いが施策展開に影響することが改めて認識された。

視察で得られた知見を、今後の目黒区における健康づくり施策や介護予防事業の充実に生かすとともに、友好都市である角田市との交流を一層深め、互いの取組を学び合いながら、より良い地域づくりにつなげていきたい。



角田スポーツビレッジにある「NIKKO アリーナかくだ（角田市総合体育館）」



角田スポーツビレッジにある温水プール

## 角田友好訪問団視察報告

田島憲二

視察場所 かくだスポーツビレッジ

日時 令和 8 年 1 月 29 日

施設名 かくだスポーツビレッジ

住所 宮城県角田市枝野字青木 155-31

電話番号 TEL. 0224-63-3771

### 施設概要

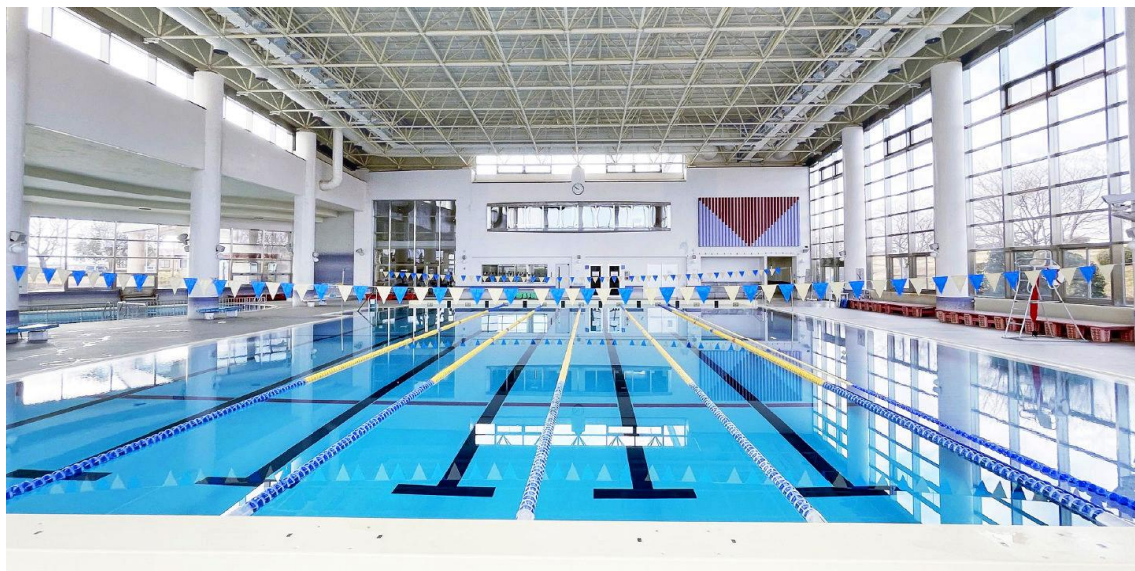
- ・角田市総合体育館
- ・角田市スポーツ交流館
- ・角田中央公園（交通公園・陸上競技場・テニスコート・野球場・多目的広場・屋内温水プール・K スポウオーキングコース）

「かくだスポーツビレッジ」とは角田中央公園一帯に集約されたスポーツ・健康・交流をテーマとした総合スポーツエリアでした。2018 年に角田市が公園・スポーツ施設エリアを「かくだスポーツビレッジ」に改称し、2019 年には隣接地に「道の駅かくだ」がオープンして、スポーツ施設と道の駅による複合施設となり地域活性化モデルとして、全国的に注目されている。



角田中央公園は、年間約 25 万人の利用者で賑わう場所ではありますが、その名称からは野球場、陸上競技場、屋内温水プールなどのスポーツ施設が数多く集まっていることがイメージしにくい状況でした。また、総合体育館やスポー

ツ交流館を含めた施設一帯を総称する名称がこれまで無く、施設のイメージを分かりやすく発信し、スポーツ施設一帯での利用促進を図るため、複合スポーツ施設として愛称を公募したところ、市内の方をはじめ、県外の方からもたくさんのご応募をいただきました。



この応募の中から、かくだスポーツビレッジ（略称：K スポ） に決定しました。身近なスポーツ施設一帯を「あたたかさ」・「つながり」・「オリンピック選手村」のイメージを持つ「村（ビレッジ）」に見立てた、『かくだスポーツビレッジ』を愛称としました。また、響きの良さや覚えやすさを考慮し、角田（KAKUDA）の「K」とスポーツビレッジの「スポ」をとった、『K スポ』を略称としました。

そしてまた、公園の隣接施設として「道の駅かくだ」が整備され、総合複合施設として、市民及び市街からも人気を博する施設となっております。

## 総 括

目黒区には無い複合総合スポーツ施設であり、友好都市として宿泊施設もあり、小中学生の合宿及び生涯スポーツの場として活用を調査し、スポーツを通しての友好交流を拡充すべきと思います。

令和 7 年度  
友好都市等交流事業 宮城県角田市訪問視察報告書

吉野正人

【かくだスポーツビレッジ（Kスポ）】

（概要）

- 角田中央公園一帯に集約されたスポーツ・健康・交流をテーマとした総合スポーツエリア。  
2018年に角田市が公園・スポーツ施設群の愛称を「かくだスポーツビレッジ」と決定。  
2019年には隣接地に「道の駅かくだ」がオープンし、スポーツ×道の駅による地域活性化モデルとして全国的にも注目されている。  
常磐自動車道山元インターチェンジから5分とアクセスが良いため、仙台市等からの利用者が増加している。  
中体連の各種大会も全種目が開催されている。  
令和6年の年間利用者は約350,000人となっている。

（主な構成）

- ・角田市総合体育館
  - ・角田市スポーツ交流館
  - ・角田中央公園（交通公園・陸上競技場・テニスコート・多目的広場・野球場・屋内温水プール・ウォーキングコース）

（各施設等の状況）

- 角田市総合体育館
  - ※R6 利用者 103,426 人
  - 選手控室2室、更衣室6室、会議室もあり、さまざまな大会・合宿に活用されている。また、年間でさまざまなスポーツ教室を開催しており、市内外の健康づくりの拠点となっている。



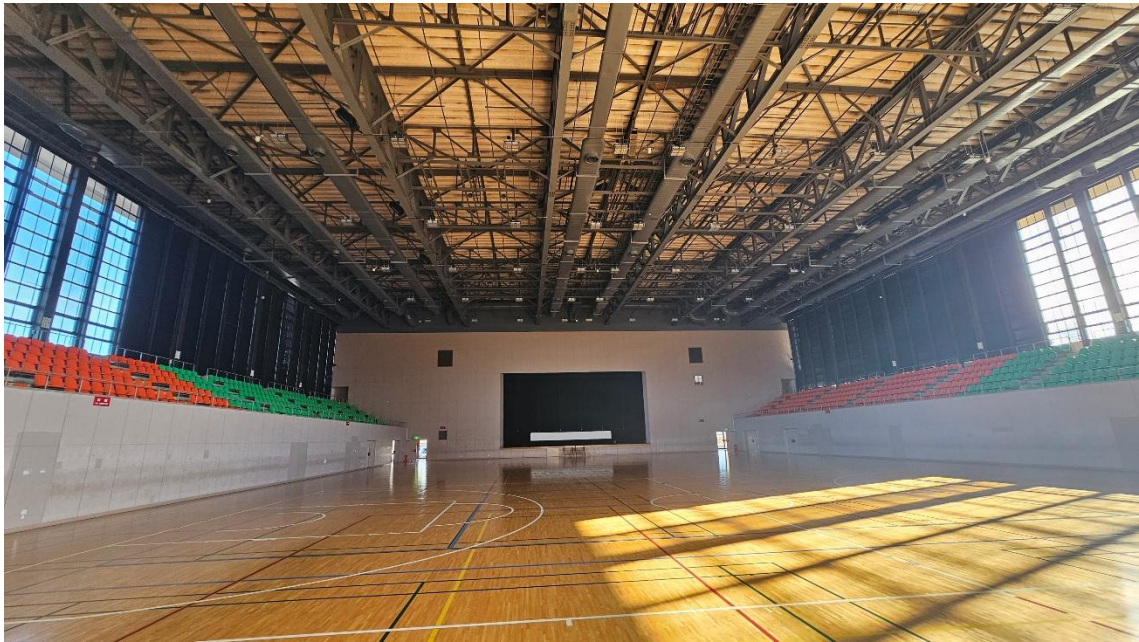
・競技場（アリーナ）

バレーコート3面・バスケットコート2面・バドミントンコート12面・卓球台24台設置可能なスペースがあり、放送設備も完備され多目的に活用されている。

観客席としては1,100席（常設）、900席（アリーナ）の合計2,000席。

角田市出身のプロレスラー「斎藤ブラザーズ」によるプロレス興行も大人気。

共生社会実現のため、小中学校への出前授業を含め、車いすバスケ普及活動を実施中。



- ・ 武道場

105 畳の柔道場と 16m×13mの剣道場のスペース。武道以外にも、フィットネス教室など多目的に利用されている。



- ・ トレーニング室

ランニングマシン・筋トレ器具を完備。インストラクターによる個別相談も定期的を実施されている。

- ・ 幼児体育室

未就学児用の遊び場。エアコン完備で快適に遊ぶことができる。

## ■角田市陸上競技場

※R6 利用者 18,172 人

第3種公認施設でありながら、練習にも気軽に利用できる県南唯一の施設。走路はウレタンチップ素材で柔らかく、練習・合宿には最適である。

1,000名以上収容可能なメインスタンドもあり、芝生フィールド（高麗芝）は、ベガルタ仙台レディース（現マイナビ仙台レディース）、ソニー仙台FCのホームゲーム会場にもなっている。

## ■中央公園テニスコート

※R6 利用者 17,830 人

砂入り人工芝8面で、夜間照明も完備しており、日頃の練習の他、各種大会・合宿で利用されている。



## ■交通公園

※R6 利用者 50,821 人

遊びながら交通ルールを学べる公園。自転車や足踏み式ゴーカートの他、ピクニックができる芝生広場やたくさんの遊具がある。Kスポでの大会参加者に随行するお子様の遊び場としても活用されている。

国内にて現存、稼働する珍しいU F O型信号機（懸垂型交通信号機）が設置されている。



## ■ゲートボール場

※R6 利用者 370 人

ゲートボールコート 2 面。40m × 25m のスペースで、ペタンクなど多目的に利用できる。

## ■道の駅かくだ

直売所・フードコートがあり、練習・合宿・試合の合間での食事や、おみやげも購入できる。おみやげには、地元名産品の他、J A X A の宇宙グッズ、伊達政宗の次女「牟宇姫（むうひめ）」グッズなどを販売。

## ■多目的運動場

※R6 利用者 2,866 人

110m × 70m のサイズで、野球、ソフトボール、サッカー等様々な利用が可能。

## ■多目的芝生広場

※R6 利用者 4,760 人

100m × 45m のサイズで天然芝が整備され、小学生のサッカーやグランドゴルフ、ピクニック等に利用されている。

## ■角田市野球場

※R6 利用者 14,625 人

両翼 90m・中堅 120m・外野天然芝敷設で 1,000 名収容の観戦スタンドを整備。各種試合、オフシーズンの合宿地として利用されている。

## ■角田市屋内温水プール

※R6 利用者 82,448 人

プール（25m、子ども用、幼児用）の他、ジャグジー、採暖室があり、市内外の健康づくりの拠点である。スイミングスクール（送迎あり）の他、フィットネス会員制度（プール、健康器具、ヨガ・健康体操等のさまざまなレッスンを自由に利用できる制度）を展開している。

午前中は高齢者、午後は女性サークル、夕方からは仕事が終わったサラリーマンが主な利用者。

夏休み期間には月間約 1 万人が利用し、年間では約 8 万人が利用している。

年間利用者のうち、市内居住者 30%、市外居住者 70%の割合となっている。

また、小中学校における学校プール授業としても利用されている。



### ・メインプール

日本水泳連盟公認 25m 8 レーン。各種大会が開催されている。

### ・ウォータースライダー

子どもに大人気である。

- ・フィットネス器具

各種器具をフィットネス会員が利用できる。



- ・多目的ホール

10m×7mのスペースで冷暖房完備。サークル・教室開催等に利用されている。

## ■角田スポーツ交流館

※R6 利用者 29,682 人（うち宿泊 718 人）

寝室5部屋で61名まで宿泊可能な施設。年間を通してさまざまな競技種目団体のスポーツ合宿に利用されている。

- ・多目的ホール

バレーコート1面・バドミントンコート3面・卓球台4台設置のスペース・器具があり、小体育館として活用されている。

- ・交流室

自由利用のスペースだが、合宿時は食堂として利用されている。

- ・浴室

大浴場と小浴場を完備

- ・会議室

研修、会議、寝室等で活用されている。

- ・調理室

調理器具を完備。合宿での自炊に活用されている。

- ・和室 1

60 畳の大部屋として多目的に利用でき、防音壁で 3 部屋に区切ることも可能。  
主に合宿の寝室として利用されている。

- ・和室 2

20 畳の広さで、合宿の寝室として利用されている。

## ■まとめ

中体連の各種大会が全て実施できるほど充実した設備がそろっていることには感心した。

角田市は 2019 年に、角田市スポーツ協会、スポーツ少年団、市教育委員会、指定管理者（(株) フクシエンタープライズ、地域振興公社、総合型スポコム）、道の駅管理者、仙台大学などによる「スポーツコミッション（スポネットかくだ）」を設立し、「アウター政策」として、スポーツを活用して地域の経済の活性化を促す、「インナー政策」として、地域住民のスポーツ参加を促進することにより、スポーツによる地域活性化を推進している。

まさに「スポーツ×健康×交流×観光（道の駅）」を融合した全国的にも先進的なスポーツ拠点となっている。

施設の充実度に加え、「スポネットかくだ」を中心とした地域協働の仕組みが確立していることを含めて、今後の本区における取組の参考としたい。

以 上

【令和7年度 友好都市等交流事業 角田市訪問報告書(文責:岸)】

期間 : 令和7年1月29日～30日

訪問自治体: 角田市

訪問団員: 鈴木まさし(団長)

訪問団員: 田島けんじ、岸大介、吉野正人、上田あや、はまよう子、橋本しょうへい、  
後藤さちこ、松島祐一郎

随行員: 松下健治事務局長、神邊敏彰係長



【視察報告の担当】

4. 島田字堀切地内視察（角田市・島田生産森林組合との森林整備及び環境交流・環境学習等の実施に関する協定に関わる現地視察）



### 【背景】

昨年度（令和 6 年度）より、友好都市である角田市の森林整備事業への、“森林環境譲与税”の使用の検討を重ねてきた。結果として、令和 7 年 10 月 17 日に、角田市の民有林を候補地として事業を実施してゆく旨の協定(目黒区・角田市・島田生産森林組合における森林整備及び環境交流・環境学習等の実施に関する協定)の合意が為されるに至っている。

※

([https://www.city.meguro.tokyo.jp/kankyouhozen/kurashi/kankyou/kakuda\\_shinrinseibi.html](https://www.city.meguro.tokyo.jp/kankyouhozen/kurashi/kankyou/kakuda_shinrinseibi.html))

目黒区の森林環境譲与税の使途としては、令和 7 年度はコンサルティング会社への CO2 吸収量を含めた調査委託で 320 万円余。令和 8 年度は今事業への実地調査で角田市へ 200 万円余。令和 9 年度は実働として 1 千万強の歳出の見込み。あくまでも現段階での実績と、予算案の（案）として画策をされている段階である。

### 【協定における連携事項】

1. 森林整備の実施（「森林経営管理権修築計画」を画策した森林）
2. 二酸化炭素の吸収量の算定
3. 自然体験事業、環境学習、環境交流の実施 等

### 【視察行程】

1 月 30 日、  
 午前 9 時 10 分 「グリーンホテル角田（角田市角田字大町 37-1）」 出発  
 ↓  
 約 20 分のバス移動  
 ↓  
 午前 9 時 30 分 「森林整備事業対象地（島田字堀切地内）」 到着。  
 （～午前 9 時 40 分）

正味 20 分程度ではあったが、角田市農林振興課の小川課長からの説明を拝聴の後、幾点かの質疑をする機会を頂く。

#### 【質疑の要点】

- 今事業における青写真は、角田市としては、どの様に描かれているのか？
- 目黒区に分配される森林環境譲与税を原資としての森林整備事業計画である。角田市内における、“手つかず”の森林の整備に資すると伺っているが、受益者負担の原則からすれば、目黒区民にリターンのある事業と為される事を期待したいが如何か？

#### (お答え)

調査が始まる前段階で、明確な将来像を描ける段階では無く。青写真を描くにしても、三者協定の範囲を超える事は無いと思われる。

目黒区側の本質としてのご期待に沿えられる為にも、これから始まる調査の結果を鑑みて、また趣旨から外れる事無い様、未来につなげられる施策になる事を期待している。

#### 【所感として】

本協定締結に伴う、現地視察という位置づけである。しかしながら、「何故この場所が選ばれたのか？」という、純粋な疑問は残った。「協定の連携事項」に記載のある目的利用、つまり森林整備が終わった後に、何処まで都市間での交流や、環境学習まで考えておられるのか？という点は皆目見当もつかない。質問した所で、同席した関係者でさえ明確なお答えを持つ訳では無い。「目黒区のお金で、未整備であった森林の整備をやっしまえ！？」という悪意こそ、同席した方々からは感じられなかったが。目黒区側としては、“目黒の金で角田の森林を整備する。”という現実には常に意識しなければいけない、最重要項目であると思えた。(もともと、「森林環境税・森林環境譲与税」に関わる国そのものの制度自体が“雑”であるという点に、自治体が振り回されている印象さえ受けてしまうのは、令和 8 年現在の議会人としての率直な印象として。)

もとい、現段階では場所の選定が終わったに過ぎず、地図の上で対象森林範囲のマーキング(参考地図)と、木々の植生の理解が出来たに過ぎない。深い森の中にバスを停車して頂き、周辺を拝見するも、ビジターたる我々訪問団にしてみれば、木々に囲まれた細い市道で迷子になっているかの錯覚をも覚えた。勿論、季節が違えばまた違った印象を受けるであろう事は当然として。

蛇足にはなるが、そもそも角田市と目黒区が友好都市のキッカケとなった、「目黒氏」所縁深い「池田館跡(名跡)」の“近隣”が今般の選定された“エリア”という事であり、関連してのエリア選定であったものと想像する。友好都市交流の一つの目玉として、また先祖返りではないが、所縁のある名跡を起点に学びを得る事の良さを感じた。

島田生産森林組合





池田館跡（目黒氏の館跡に建つ子孫の墓石群）

## 目黒区・角田市・島田生産森林組合における森林整備及び 環境交流・環境学習等の実施について（宮城県角田市）

角田市・島田生産森林組合との協定締結を機に、1/29(木)～30(金)の2日間にわたって、議会有志のメンバーで角田市を訪問。私自身も1期目の最後の一般質問で森林環境譲与税について時間を大きく割いて質問してきた経緯もあり、活用方法とその実態については大きな関心があったことから訪問団の末席を汚させて頂くことにした。現地ではいくつかの施設などとともに当該の地域も視察させて頂いた中で、私は今回の視察の最大の目的である当該の森林についてのレポートを担当することになった。機会を譲って頂いた田島議員(自民)に感謝しつつ、学んだことを書き連ねていきたい。



なお前提として、宮城県南部に位置する角田市は人口規模が31,000人余りで目黒区の1/10程度であり、全国的なボリュームゾーンである5万人よりやや小規模な自治体である。財政規模も来年度の一般会計予算案ベースでは166億円ほどと目黒区の1/10程度となっている。一方で面積は147㎡あまりと、14.7㎡の目黒区の10倍ほどの広さを持つ。また太平洋側に位置していることから降雪は稀であり、全国的な大雪を告げる報道がTVを賑わせる中であっても、積雪はなかった。

また角田市にはかつての武州荏原郡目黒邑から集団移転した方々の末裔が住んでおり、昭和57年に「お座敷列車」で目黒区民が訪れたことが角田市との交流の発端であったようだ。実際に今回の協定の対象地域も目黒区との関係が選定理由の一つになっており、実際に現地からの帰り際には、当時移住した方々の墓も見させて頂いた。墓石の前には湯呑茶碗が置かれており、いくつかは倒れていたものの、地元の方々から敬意を持って扱われてきたことが窺えた。

令和7年10月29日に締結された「目黒区・角田市伊・島田生産森林組合における森林整備及び環境交流・環境学習等の実施に関する協定書」の内容を事前に読んだ際には、目黒区が森林環境譲与税を活用することで目黒区や角田市がどのようなメリットを享受できるのかは私にはうまく理解できなかった。この財源が例えば今後の角田市の林業発展に寄与するか、または将来的にこの地域で生産された木材の売払い収入がそれまでの支出を超え

るまでに育つのか(協定第9条第1項「伐採した木材の売払い等収入があった場合は、甲、乙及び丙が協議の上、定めるものとする」)。私事だがボランティア活動そのものが観光資源となっているような自治体も見たことがある中で、単なる交流そのものが目的に終わらないようにするにはどのような取組が必要になるか。そして同じように森林環境譲与税の使途として、私たちの水源でもある利根川及び荒川水系、多摩川水系より優先すべき理由にはどのようなものがあるか。こうした問いを持って視察に臨んだ。



葉入目にはわかりにくい、枝打ちどころか雑草の除去もできておらず荒廃している

まず林業の発展という視点では実際に現地を訪れてみると、人手不足で整備が行き届いていない現状を目の当たりにさせて頂いた。人の手が入っていない状態は想像できておらず、かなり深刻であった。

事前に準備していた質問として、この地域の木材の特徴がどのようなものなのかを尋ねたところ、どのような木材をどのように活用できるのかはわからず、そもそも現状把握のための調査が必要であるとのこと。その上で、木材や「ほだ木」などとして使えない場合は一度伐採して更新することになるそう。

さらに実際に森林整備のために活動ができる期間は雑草などが生い茂ることのない秋～冬の期間のみという点も現場で説明を受けて初めて知った。そして当然ながら、林業は植えてから伐採まで非常に長い年月がかかる。しかも植えてから伐採する以前に、まだまだ調査が必要な段階であり、産業として成り立つようになるかどうか、または売払い収入があるまでどれだけかかるかは全く見えない状態であった。目黒区議会での予算～決算のサイクルや数年単位となることが多い各分野の実施計画と違って、そもそも林業は数十年というスケールになる。こうした視点から言えば、すぐに結果を求めることは難しい。

次に交流という視点。都市部の住人である我々には地方の林業そのものへの理解がほとんどなかったことも実感した。こうした意味でも、環境学習や交流は目黒区民にとってもある程度の意味を持つだろう。多様な繋がりを持つという視点でも、財源の一部を角田市に振り向ける意義はあるとも考えられた。何より、目黒区から移住した人々に敬意を払っていた様子を拝見し、利害得失だけではない視点でも交流を続けるべきだという感情を持つに至った(EBPMの視点からはかけ離れているが…)。



八ヶ岳林間学園及び興津自然学園を維持するかどうか来年度に検討する目黒区としては自然体験学習の候補地にもなり得る中で、角田市としては環境学習として目黒区から子

2026/02/21(水)角田市視察

立憲民主・目黒フォーラム 橋本しょうへい

どもたちが訪れることで交流人口が増大する。今回の協定締結を一步目とするならば、交流人口の増大によって未整備の森林に手が入るきっかけを作ることが二歩目になるだろう。そしてその先は、交流そのものが目的にならないよう、さらに次の手を考えて歩み続けることが必要になるのではないか。いずれにせよ、息の長い不断の取組みが必要になるということを実感した。

そして何より、どのような価値をもたらすことができるかは今後の議論や活動次第であり、余白の部分がまだまだ多くあるとも感じた。目黒区の財政規模からいえば決して多くない部分であるが、随行して頂いた現在の区議会事務局長がかつて所管課長として締結に大きく関わっていたこの協定が、将来大きな価値を生むよう取り組んでいきたい。

末筆ながら、急な解散総選挙の真ただ中にあって歓待を頂いた角田市議会、市役所、及び島田生産森林組合の皆さま、並びに区議会事務局や関わって頂いた全ての皆さんに感謝を申し上げるとともに、派遣に際しての費用や手間以上の価値を生み出せるよう、議会での議論に活かしていく所存である。



# 宮城県角田市

## 角田宇宙センター視察報告書

報告者 上田あや

下記により行政視察を行ったため、その結果を報告します。

|                                                                                                            |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <strong>・視察日時</strong><br>令和8年 1 月 30 日                                                                    |
| <strong>・視察場所</strong><br>宮城県角田市 JAXA 角田宇宙センター                                                             |
| <strong>・派遣委員の氏名</strong><br>田島委員、吉野委員、岸委員、はま委員、橋本委員、後藤委員、松嶋委員、上田                                          |
| <strong>・視察内容</strong><br>(1) ロケットエンジンの研究開発<br>(2) 試験設備及び安全管理体制<br>(3) H2 ロケット失敗事例と再発防止<br>(4) 将来の宇宙輸送システム |

### 1 視察の目的

角田宇宙センターは、液体燃料ロケットエンジンの研究開発・試験を担う国内中核施設であり、日本の宇宙開発を支える重要な拠点である。本視察では、同センターにおけるエンジン開発、試験設備、安全管理体制、失敗事例からの技術改善プロセスを把握し、目黒区における行政運営、とりわけ安全管理、データ活用、組織運営の高度化に資する示唆を得ることを目的とした。

### 2 視察内容

#### (1) ロケット開発及びエンジン技術

角田宇宙センターでは、液体水素と液体酸素を用いた液体燃料ロケットエンジンの研究開発

が行われている。燃焼温度は約 3000 度、排気速度は秒速 4km 以上に達し、極めて高温・高圧環境下での精密な制御が求められる。特に、燃料を高圧で送り込むターボポンプは、毎秒数百回転という超高速で稼働し、エンジン性能の中核を担う重要部品である。

#### (2) 試験設備とデータ活用

同センターには、高空燃焼試験設備やターボポンプ試験設備などが整備されており、宇宙空間の真空環境を地上で再現した試験が可能である。また、エンジン単体のみならず、インデューサー等の部品レベルに至るまで詳細なデータ取得が行われ、その分析結果が設計改善にフィードバックされている。このような「試験→分析→改善」のサイクルが、信頼性向上の基盤となっている。

#### (3) H2 ロケット 8 号機の失敗と教訓

1999 年に発生した H2 ロケット 8 号機の打ち上げ失敗については、海底から回収されたエンジンの詳細な分析により、液体水素ターボポンプ内のインデューサー破損が原因と特定された。その要因は、極低温環境下で発生するキャビテーション現象による振動集中と金属疲労であった。この失敗を契機に、キャビテーション研究のための専用設備が整備され、以降同様の事故は発生していない。失敗を徹底的に分析し、設備と技術に反映する体制が確立されている点が特筆される。

#### (4) 将来の宇宙開発

将来構想として、再使用型宇宙往還機(スペースプレーン)の研究が進められている。これは、空気吸い込み式エンジンとロケットエンジンを組み合わせた複合サイクルエンジンを用い、打ち上げコストの大幅削減を目指すものである。現在は実用化に向けた基礎研究段階であるが、長期的視点での技術開発が継続されている。

### 3 目黒区への示唆

#### (1) 安全管理の仕組み化

同センターでは、失敗事例を個別事案として終わらせるのではなく、原因分析を徹底し、試験設備や研究体制の整備という形で制度化している。本区においても、保育施設や福祉施設、公共施設等における事故・ヒヤリハットについて、組織的に蓄積・分析し、再発防止の仕組みとして活用する必要がある。

#### (2) データに基づく行政運営

部品単位での詳細なデータ取得と分析により開発精度を高めている点は、行政分野にも応用可能である。特に学校評価や児童生徒の状況把握においては、より精緻なデータ収集と分析、

それを施策改善に接続する仕組みの強化が求められる。

### (3) 中長期的投資の重要性

宇宙開発は短期的成果にとらわれず、長期的視点での投資により社会基盤を支えている。本区においても、教育施策、子ども支援、デジタル基盤整備等について、中長期的な視点に立った施策展開が必要である。

### (4) 人材育成と組織力

高度な技術開発を支えるためには専門人材の育成と知見の蓄積が不可欠である。本区においても、外部委託に依存するのみならず、職員の専門性向上と組織としての知見蓄積を進めることが重要である。

## 4 所感

本視察を通じ、宇宙開発という分野においても、安全管理、データ活用、長期投資、人材育成といった観点は行政運営と共通する基盤であることを確認した。特に、失敗を前提とした検証体制と、データに基づく改善サイクルは、今後の目黒区政においても重要な視点である。

# 令和7年度友好都市訪問報告書

目黒区議会議員 後藤さちこ

## 1 日程

令和8年1月29日（木）～1月30日（金）（1泊2日）

## 2 訪問先

宮城県角田市

## 3 訪問団

団長 鈴木 まさし

団員 田島 けんじ

岸 大介

吉野 正人

上田 あや

はま よう子

橋本 しょうへい

松嶋 祐一郎

後藤 さちこ

随行 松下 健治

神邊 敏彰

## 4 訪問目的

- （1）角田市議会との意見交換及び調査研究
- （2）行政施策及び議会活動の視察
- （3）友好都市交流の深化及び教育分野における連携可能性の検討

## 5 視察内容

- ・スペースタワー・コスモハウス
- ・宇宙航空研究開発機構（JAXA）角田宇宙センター

### （1）スペースタワー・コスモハウス

宇宙科学をテーマとする展示施設であり、H-IIA ロケット模型や H3 ロケット主エンジン LE-9 に関する展示、ロケットエンジン実機等が整備されている。日本のロケットエンジン開発の変遷や燃焼試験の概要を体系的に学ぶことができる構成となっている。

また、小惑星探査機「はやぶさ」によるイトカワからのサンプルリターンに関する展示や国際宇宙ステーション（ISS）の模型展示等、宇宙科学の最前線を紹介する内容も充実している。地域と宇宙研究との結びつきを示す展示もあり、宇宙を地域資源として活用している点が印象的であった。

## （２）JAXA 角田宇宙センター

角田宇宙センターは、我が国のロケットエンジン研究開発の中核拠点であり、液体ロケットエンジンの燃焼試験設備やターボポンプ試験設備等を有する重要施設である。

H-IIA ロケット及び H3 ロケットの主エンジン開発に関わる研究が行われ、信頼性向上、安全性確保及び性能向上のための継続的な試験が実施されている。宇宙輸送技術を支える基礎的かつ実証的な研究の重要性を確認した。

さらに、2026 年春の運用開始を予定する「官民共創推進系開発センター」の整備が進められている。同センターは、エンジンシステム試験、燃焼器単体試験、ターボポンプ単体試験、コンポーネント試験及び極低温・高圧環境下での要素試験等に対応可能な設備を備える計画であり、試験設備の提供とともに技術支援を行う体制が構築されつつある。宇宙分野における官民連携の推進基盤として重要な取組である。

## ６ 所見

宇宙開発は、人工衛星通信、気象観測、測位システム等を通じ、既に社会基盤を支える重要分野となっている。宇宙産業は今後も成長が見込まれ、人材育成の観点からも教育的意義は大きい。

文部科学省は、理数教育の充実や STEAM 教育等の教科等横断的な学習を推進している。宇宙分野は科学・技術・工学・数学が融合する代表的領域であり、こうした人材育成の観点からも有効な学習題材である。

私自身、過去に JAXA 種子島宇宙センターを訪問した経験がある。発射施設や組立施設を目の当たりにし、宇宙開発が高度な技術と地道な検証の積み重ねによって成り立っていることを実感した。その後、国際宇宙ステーション（ISS）が日本上空を通過する際には空を見上げるようになり、宇宙をより身近に感じるようになった。

H3 ロケットは初号機で打上げ失敗を経験したが、検証と改良を経て試験機 2 号機では成功している。現在、H3 ロケット 9 号機による準天頂衛星「みちびき 7 号機」の打上げが予定されているものの、技術的確認のため延期が発表されている。

宇宙開発は挑戦と検証を重ねながら前進する分野であり、角田宇宙センターで行われている燃焼試験や基礎研究は、その信頼性向上を支える根幹である。今後の打上げ成功を期待するとともに、継続的な研究開発の重要性を改めて認識した。

成功のみならず、失敗から学び、検証を重ねて前進する姿勢そのものが、次世代に伝えるべき価値であると考え。宇宙開発の現場に触れることは、理科教育にとどまらず、挑戦する力を育む教育機会となり得る。

角田市は、豊かな自然環境と最先端宇宙研究施設を併せ持つ特色ある自治体である。本区において実施している宿泊自然体験事業について、将来的に角田市を選択肢の一つとして検討することは意義があると考え。

角田市における農業体験や林業体験等の自然学習に加え、JAXA 施設での宇宙学習を組み合わせることは、理科教育及び STEAM 教育の観点からも有効である。さらに、地元小学生との交流機会を設けることで、都市と地方の子どもたちが互いの生活環境や文化を学び合う教育的効果も期待できる。

自然体験と最先端科学、そして地域間交流を融合させた学習機会の創出について、今後関係部署と協議し、実施の可能性の検討を進めることが望まれる。

以上

【写真】 スペースタワー・コスモハウス前 ロケット実寸模型前にて（令和8年1月29日）



【写真】 JAXA 角田宇宙センター展示エリア 歴代ロケット模型展示（令和8年1月29日）

